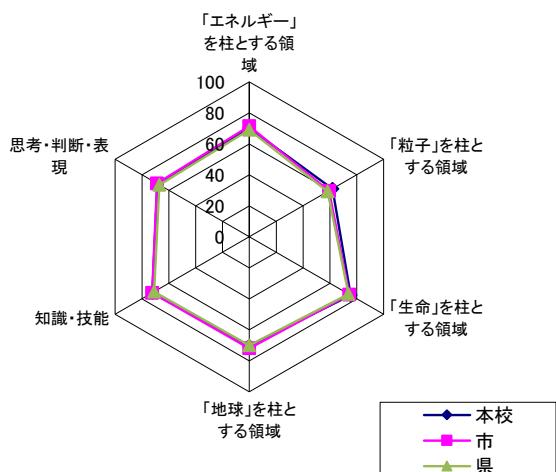


宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	75.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.3	72.0	70.1
観点	知識・技能	72.3	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、70. 1%と県、市の正答率と同程度である。 ○「輪ゴムの数と車が動く距離の関係を適切に述べた文章を選ぶ」問題では、90. 7%と正答率が高い。 ●「輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ」問題では、51. 4%と市よりも5. 2ポイントと低い結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程の中で、計画と予想を大切にした授業づくりを行い、児童一人一人が実験内容をしっかりと把握できるようにしていく。 ・実験結果をグラフや表にまとめる学習活動を設け、結果を適切に表現したり、読み取ったりできるようにする。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、61. 9%と県、市の正答率と同程度である。 ○「実験の様子を示した図をもとに、実験結果が異なった理由を選ぶ」問題では、90. 7%と正答率が高い。 ●「粘土の形と重さの関係について提示された予想にそろ結果を選ぶ」問題では、32. 7%で、正答率が低い結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の時に、体験的な活動を多くし、結果や考察を話し合いをもとにして自分の言葉でまとめられるようにさせる。 ・仮説を立て、実験結果を予想してから検証するような学習活動を積極的に取り入れ、実験結果を構想できるようにする。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、75. 4%と県、市の正答率と同程度である。 ○「記録カードを比べてわかることを選ぶ」問題では、94. 4%と正答率が高い。 ○「モンシロチョウのたまごと幼虫について適切に説明した文章を選ぶ」問題では、94. 4%と正答率が高い。 ●「モンシロチョウとトンボの育ち方を比較して差異を答える」記述問題では、37. 4%と市よりも5. 4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果からわかるなどを、文章の型を提示し、自分の言葉でまとめる機会を積極的に設けるようにする。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、70. 3%と県、市の正答率と同程度である。 ●「温度計の正しい使い方を選ぶ」問題では、70. 1%と市よりも13. 7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較実験を行う際に、変えていい条件を一つにしないといけないのはなぜか理由を考えるようにすることで、正しい実験結果が得られることに気付くことが出来るようにする。 ・学習過程の中、計画と予想を大切にした授業づくりを行い、児童一人一人が実験内容をしっかりと把握できるようにしていく。